

# 湘南にのみや 議会だより

第162号

12月定例会号

発行：平成29年1月25日

補正で80億円に迫る  
一般会計の中身は？

7議員が12件の  
一般質問！



町内の寺社は、福を願う人でにぎわった

## 12月定例会（12/1～12/9）

- ◆小中一貫教育・子育て支援について視察へ！…8～9
- ◆議会報告会・意見交換会の充実を目指して……………10
- ◆議員から町民の皆さまへ～今年の抱負～……………11
- ◆地域型総合スポーツクラブ設立へ取り組み進む！ ……12





# 補正予算

会計名	増減	補正後
一般会計	7,181万9千円増	79億6,884万2千円
国民健康保険	2億622万6千円増	38億5,991万2千円
後期高齢者医療	5万円増	8億2,468万円
介護保険	976万4千円増	25億151万4千円
下水道事業	107万4千円減	9億4,827万6千円

一般会計では、消費税8%の増税に伴う臨時福祉給付金（経済対策）事業6,686万9千円増が大きな金額である。職員給与変更により一般会計や特別会計で補正。国民健康保険特別会計では一般被保険者療養給付費と一般被保険者高額療養費の急激な増加傾向が特筆すべきものである。

- Q** 泉市町村職員退職手当組合負担金は今後も増えたまま？  
**A** 負担344万3千円増は人事院勧告による今回の職員給料増に伴うもの。負担は職員給与と組合の負担率によって決まる。
- Q** マイナンバー制度に伴うシステム改修などに町が負担するのは？  
**A** 町情報システム共同利用負担金162万円の他様々な変更に伴うもの。国が3分の2を補助、残り3分の1は地方交付税措置する。
- Q** 国の事業に職員手当を町が負担するのは？  
**A** 臨時福祉給付金（経済対策）給付事業6686万9千円増の内、職員手当50万円増。就業時間内の職員の給与は町負担、時間外手当は国負担。
- Q** 身体障害児者補装具交付金168万4千円増の内訳は？  
**A** 目視で字が出る意志伝達装置購入に対する補助を行った。
- Q** 保健センター修繕の内容は？  
**A** 修繕料11万6千円

増。湧き水をためるピットから排水するポンプを修繕した。

**Q** し尿処理施設また修繕？

**A** 低濃度臭気ファン分解整備工事129万6千円増。毎年多大な修繕費がかかっているが、今回も突発的な故障。し尿処理施設改修実施計画策定中だが、定期点検を含めしっかりと計画作成をしていく。

## 国民健康保険特別会計は苦しい!?

一般被保険者療養給付費1億3606万2千円増。一般被保険者高額療養費6677万3千円増。高齢化に伴い一人当たりの診療率や医療費が増大。また心疾患、脳血管疾患、長期治療が必要な糖尿病などの分沁系疾患、ガン治療で高額療養費も増えている。共同事業交付金で歳入の補正予算としたが、基金取崩しの可能性もある。

## 各議員の議案・陳情に対する賛成・反対は？

	小笠原陶子	前田憲一郎	桑原英俊	二宮節子	杉崎俊雄	善波宣雄	露木佳代	野地洋正	渡辺訓任	一石洋子	根岸ゆき子	柳川 駅司	添田 孝司	二見 泰弘	結果
町長提出議案名（左は議案番号）															
56	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	可決
57	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
58	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
59	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
61	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
62	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
63	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
65	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
66	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
67	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
陳情名（左は陳情番号）															
13	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	●	●	●	不採択
14	○	○	●	●	●	○	○	●	○	○	○	○	●	●	採択
15	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●	採択

※議案について、○は議案に対する賛成、●は反対したことを意味しています。  
 ※陳情番号13～15については、○は採択、●は不採択です。  
 ※二見議長は採決に加わりません。

# 一般質問

12月議会では7名の議員が登壇。12件について、一般質問を行った。

## 子育て関連の質問が6件

今回の質問の中で半分が子育て関連。プール・エアコンの学校施設から学習支援まで多岐にわたる、子ども子育てを町の施策の中心に据えることの重要性をうったえた。

また、公共施設再配置やコミュニティバスなどのインフラ関連は4件。

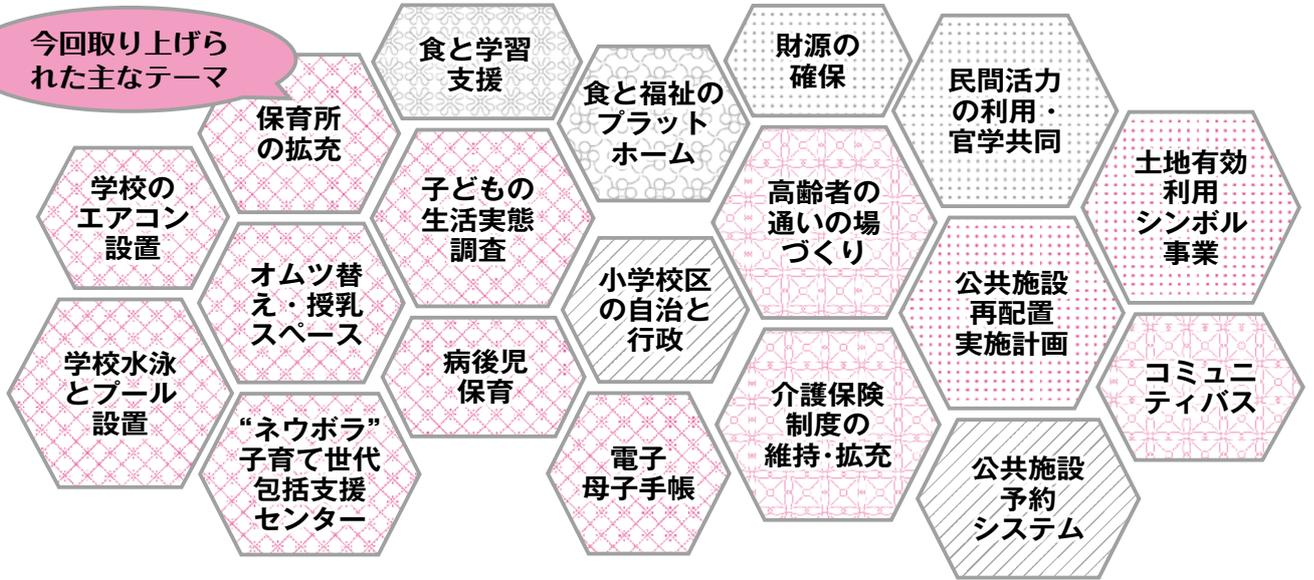
議員一人ひとりがテーマを選ぶが、それぞれのテーマは、時々の町民のニーズと施策に結びついている。

## さらに多くの方の傍聴を

一般質問は、関心事が取り上げられることが多いので、傍聴者が途切れず訪れる。ケーブルテレビの放映・録画DVDの貸し出しを行っているので、ぜひご覧になってほしい。

議会でも、さらに傍聴のしやすい環境を整えるよう検討を進めていく。

### 今回取り上げられた主なテーマ



前田憲一郎  
議員

### 問

町立小中学校の学校水泳と町営プールのあり方について問う

### 答

学校水泳の授業等を踏まえ町営プールのあり方を検討する

Q 学校水泳の授業時間を数を見ると学習指導要領に定められている事項を習熟できる内容で授業が十分に展開されているか疑問である。

A 学校の水泳の授業について、二宮小学校・一色小学校・二宮中学校の3校は全て水泳の授業を温水プールで行い、山西小学校は温水プールと山西プールを併用で、二宮西中学校は山西プールで実施した。天候に左右されず、計画通りに実施ができ、授業時間の面からは学習指導要領が示す事項を逸脱していないと認識している。

習熟できる内容の授業が十分展開されているのかという質問であるが、指摘のように水泳を習熟させるのに十分な授業ができていたとは考えていない。

ない。

Q 温水プールまで移動する経費と移動時間の削減を考慮し、学習指導要領に定められた水泳の内容を児童生徒達に習熟させる授業を展開するためにも、町営プールを学校プールとしての位置づけにできないものか。

A 町営プールはいずれも町民の健康増進のため、あるいは観光目的で設置されたものである。学校の敷地内のプールではないので学校プールとしての位置づけは考えていない。

Q 袖が浦プールは今年度休止になったが、もう一度すべての町営プールについて再検討し、来年度再開できないものか。

A 袖が浦プールについては、利用率が低く経費も高いという指摘をうけ

てきたところだが、人口減少や厳しい財政状況、行政サービスゼロペー

スで見直しを行う中で休止とした。今後、公共施設再配置を行う中で、ご利用いただいていた団体からの声や、学校授業への影響などを踏まえながら、袖が浦プールを含む3つのプールの在り方について議論を進めていきたいと考えている。



休業中の袖が浦プール

# 一般質問



二宮 節子  
議員

**問**  
子育ての包括的な支援について  
電子母子手帳への参加は

**答**  
支援センターは29年に開設  
電子母子手帳も早い時期に

**Q** 妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援を提供するフィンランドのネウボラを本とすると「子育て世代包括支援センター」の設置時期は。  
**A** 保健センター内に平成29年7月に開設。助産師または保健師が専任で常駐し、今後の母子手帳交付は、専門職が直接面接し、発行は保健センター内で一元化する。栄養や歯科の相談は、健康づくり課で対応する。  
**Q** 相談体制や産前産後のサポート強化を伺う。  
**A** 母子手帳交付時に相談機能を説明し、保健師なり助産師がチームを組み、本人やパートナーの不安は申し出により、現在も相談に乗っている。

**Q** 平成25年調査で「相談の場の確保を望む」が1位だがその後の対応は。  
**A** 具体的に変わっていないが、相談しやすい環境や機会を与えている。  
**Q** コミュニティケア会議の考えを聞く。  
**A** 多様な専門機関との連携が必要と考えている。地域の中でも必要ならば連携は考えてゆく。  
**Q** 予防接種や健康データ、子育て日記を簡単に記録できる電子母子手帳を無料で県が提供している。発災時にデータが残り再発行が可能なこの取り組みへの参加を伺う。  
**A** 町からの情報発信も伴う点がネックになっているが、積極的に来年度から参入したい。



あるとうれしい「あちゃんの駅」  
(愛知県豊川市で活躍)

**Q** イベントの際、おむつ替えや授乳スペースは大切である。現在授乳施設の用意がないが、「移動式赤ちゃんの駅」を多くの自治体で取り入れている。町での整備は。  
**A** 子育てサロンでも問題となっているが、アプリを利用しての授乳を勧めている状況だ。施設に余裕がなく、その都度、職員が場所を探すなどの対応をしている。  
**Q** アプリを通じて町のおむつ替えや授乳スペースなどを検索できる施設マップの導入は。  
**A** ホームページ上のマップに情報の追加を検討している。



露木 佳代  
議員

**問**  
財源確保の新しい発想と  
子育て支援事業の改善は

**答**  
財源確保は健全であるべき  
病後児保育は進めていく

**Q** ふるさと納税で億単位の寄付を集める自治体がある。町の納税額と控除額はどうか。脱税等生ふるさと納税の考えは。  
**A** 納税額約415万円に対し、控除額が1115万円である。3倍近い額が町外へ出ているが、地元へ根差した返礼品がスタンダードだと考えている。ふるさと納税は制度的に批判もあり、億単位の寄付額を集めている自治体は毒まんじゅうを食べたようなものと思う。自治体間で競う形ではなく健全な財源確保を考える。

**Q** 企業との提携で町の事業を進めることは。  
**A** 特定の事業者と提携するならば、その経過を明らかにすべき。これまで話があっても町の意向と合わなかった。  
**Q** 発想力のある人材による組織づくりは。  
**A** 町の状況を知っていたり、今後の課題になりそうなことに取り組んでいるかたは、職員に会ってもらっている。また首長会議なども情報の収集に活用している。職員や町民からも、町の将来につながる提案は受け入れる。

**Q** 町長と職員とでじっくり話し合う時間は。  
**A** やり取りはしているが、行政の慎重さを壊すほど新しいもの、博打のような提案もできない。制度設計を進めるにはリスクもある。どう超えて実現するのは外部やプロの知恵が必要。  
**Q** 病後児保育の検討は？  
**A** すでに実施している大磯町と連携で事業を進めるのが現実的では。  
**Q** この2年、実現のために検討してきた。強力的に調査、研究、推進していくことを約束する。  
**Q** 申込み方法や場所、HPの案内など、改善できるのではないかと。  
**A** 現場と調整し、積極的な対応を図りたい。HPは早速、改善に動く。他、小中学校のエアコン設置や公共施設オンライン予約システムについて質問した。



境町の視察において町長が自ら説明  
—ふるさと納税額が14億円へ—



渡辺 訓任  
議員

問

「ミニバス見直し運行へ  
高齢者への配慮と地域の理解を

答

「乗り支える」仕組みが重要  
足を運んでの説明が大切

問

ミニデイサービス廃止後の  
動きや見守り体制の強化は

答

リーダー養成講座を実施し、  
消防署や介護事業者と連携する



小笠原 陶子  
議員

Q 買い物・医者など行きたいところ、公共交通空白地域の解消は同時に解決が可能なか。  
A 次回の地域公共交通活性化協議会でルート・ダイヤ案を提案する。一周1時間を基本に調整を進めている。  
Q 高齢者に対する配慮が必要だ。富士見が丘で自由乗降区間は設定できないか。1日100人が利用するという利用者目標を実現する鍵は。  
A 地域の拠点を停留所にしてほしいとの声が多い。地域で「乗り支える」仕組みづくりが重要だ。  
Q 年間経費と利用目標からすると町の実質負担は600万円。目標達成時のインセンティブは。バスが小型になり、2台の購入で余裕のある運行はできないか。

A 目標達成した場合、便数の増加・運行エリアの拡大などを考える。小型でも価格はほぼ同じ、人件費が一人1千万円で、2台の運行は難しい。  
Q 「乗り支える」仕組みとは？ 地域に理解を得ることが重要だが、どのように進めるのか。  
A 回数券や手形などの仕組みは検討中。特定の利用者までは想定していない。当該地区に足を運び説明・意見を交わすことが重要だ。  
Q 現年の保育所待機児童の状況は。  
A 駅前ナースリーができたが、11月1日時点で3歳未満の待機児が5名となっている。



3年間の試行を終えてようやくの見直しへ

Q 支援計画の見直しが必要と考える。30年度から保育定員は増えているが実現可能なか。町独自の人材登録など、町として人材の確保と育成を強く進めるべきだ。  
A 民間事業者にも声をかけて計画にある定数確保を進めて行く。  
★他、「介護保険利用者が受けるサービスと負担の変更」について質問した。  
Q 町は29年3月からミニデイサービスをやめて、通いの場をつくるという説明会を実施。廃止説明の時期が遅すぎる。通いの場は各地域で毎週1回、体操を必ず30分実施し、2時間の間に触れ合いのためのプログラムを運営するものである。  
Q 町は29年3月からミニデイサービスをやめて、通いの場をつくるという説明会を実施。廃止説明の時期が遅すぎる。通いの場は各地域で毎週1回、体操を必ず30分実施し、2時間の間に触れ合いのためのプログラムを運営するものである。

で連携をとれるよう進めていく。  
Q 今年も11月にひとり暮らしのかたのお宅の火災、また孤独死の発見の遅れがあった。町内では見守りの必要な高齢者が825人いるが、事故防止に今までの見守り体制の強化を望む。  
A 昨年からの訪問介護事業所の職員を対象として高齢者住宅防火講習会を開催している。消防本部で作成した防火チェックシートを使用し、暖房器具等、火災予防の全20項目について診断。今後は、事業者が高齢者住宅を訪問した際に、チェックシートを使い、火災予防上改善が必要とされた場合は、消防本部が本人の同意を得て立入調査を行い指導する。  
Q 地域支え合いマップ



元気の秘訣は「体操」と「交流」から

# 一般質問



根岸ゆき子  
議員

**問**  
公共施設の統廃合・再配置  
実施計画の内容は

**答**  
29年度にシンボル事業3つを  
示し町民と検討する

**Q** 28年3月、公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会が設置された。核となる役場庁舎と学校教育施設が別途検討されるが、29年度策定の実施計画との整合性は。

**A** 個別施設として盛り込む予定はないが、方向性が決定次第、計画を更新していく。町民のかたと一緒に考えるワークショップには3つのシンボル事業を示したい。

**Q** 実施計画は短・中・長期に分けられている。ここ10年の最優先事業は庁舎か。

**A** 地震で潰れた宇土市役所の例もあり、悠長なことは言っていられない。来年度、移転か改修かの判断ができる検証をしたい。

**Q** 学校について教育委員会での検討内容は。

**A** 児童・生徒の学習環境の向上を先行する。1つは学区の再編成。2つ目は小・中一貫教育の実施。一色小学校で課題があり、各学年が単級となる小規模校は教育的に良くないと考えている。

**Q** 3つのシンボル事業で進めることは何か。

**A** 実施に向けた検討をするのがシンボル事業である。①東大果樹園跡地については公共施設用地としての活用と捉えるのであれば短期に取り組むことは難しい。31年度から民間の力を生かして土地の利活用が図れる事業を検討する。②スポーツ施設については事業者提案を募り一体的な運用管理を検討する。③老朽化施設の統廃合・複合化は現有施設の最大限の活用方法を検討する。施設共



今後どうする？  
老朽化が進む温水プール

通でオンライン予約システムを導入したい。

**Q** 町民意見をボトムアップでどう生かすのか。

**A** これからは建物を縮小する作業は必要。行政はもとより、町民のかたも覚悟が必要。アンケートで幅広く意見を聴取し、コアなかたたちとも様々な意見交換をしたい。プロセスの段階から対話していくことで一定の結論は出る。そこから新たな町民活動も生まれる。情報をしっかり出しながら考えていきたい。



一石洋子  
議員

**問**  
教育と福祉を繋ぐ居場所作りと  
SSWとの連携強化を

**答**  
社会全体で子育て家庭を  
支援する取り組みを進める

**Q** 子供達の幸福追求の権利のために、SSW(スクールソーシャルワーカー)との連携の状況と昨年要望した学習支援の状況を問う。

**A** 社会全体で子育て家庭を支援する取り組みとして、SSW、妊婦、乳幼児からの食育、子育て相談事業を強化したい。相談件数は増え、平成28年度は317件あった。平塚保健福祉事務所主宰の学習支援は11月よりNPOに委託、学生ボランティアが入っている。

**Q** ファミリーサポートも個人宅で預かるのは困難になっている。夕方以降、栄通り子育てサロンで複数の子どもの家庭的なバックアップの取り組みができないか。

**A** 発想の否定はしないが、使用の条件があり、

ここで判断は難しい。

住民自治を育て、政策にイノベーションを

**Q** 生活の場から政策提案する自治の町にしたい。「結婚したら二宮に住む」の若い方々の「住みたい地域は自分達で創る。行政はその手伝いをしてほしい」との移動町長室での発言は、まさに住民自治、行政参加のビジョンだ。一色小学校区地域再生協議会にテーマをもった住民グループの参加は可能か、また住民側に自治の見識あるファシリテーターが必要では。

**A** コーディネーターがいる。1月に若い方々のワークショップ、2月は活動報告も兼ねたワークショップを開催予定。再生協議会をサポートする。

**Q** 住民主体の地域公共



一色地区地域再生協議会で  
進めるコミュニティダイニング

交通の提案に関し、どのようなシナリオがあるか。

**A** 横浜市緑区の協議会が主体で、車両は企業が地域貢献で提供した事例がある。住民の主体的な動きに応じて車両を検討する可能性はある。

**Q** 行政と住民が協働するならば、税収、資金の一部は当然配分されるべきだが。

**A** モデル事業の進め方、効果を見ながら検討する。

# 三芳町・境町へ視察

## 子育て支援策 財源確保

育先進地である埼玉県入間郡三芳町と、子育て支援に独自の財政  
今回視察した2町はユニークな取り組みを進めており、子ども子  
であった。

### 境町

茨城県猿島郡境町は人口2万4千人余り、面積は約47平方キロメートルの町。古くは利根川随一の町として、水運の拠点、日光東街道の宿場町という2つの性格を持ち、人や物資の集散を通じて文化交流の場でもあった。高度経済成長期には二つの工業団地が完成することで人口も増え活性化と近代化が進んだ。

現在は「自然と近未来が体験できる町」をうたっている。

#### 町政推進の柱は

現在の町政を推進する方針は①先進的な取り組みに学びスピード感をもって実行する、②情報を集め政策を立てるブレンを各界の人材を呼んでつくる、③複数の職員を国や県に派遣して、人材育成と情報網の拡大を図る。としている。



建設には民間協力も得て実現した学童保育施設

#### 収入を増やす 財政改善策

財政改善・資金確保として、ふるさと納税制度を拡充するためにPRイベントを町外で開催、メディアを活用。ふるさと納税返礼品は地元産品も含めて種類を増やした。

その結果、ふるさと納税額は3億円を超え、児童クラブ建設事業、医療費の20歳までの無料化、お年寄り向けのイベントなどの各種事業に活用している。  
また、太陽光発電会社も設立し、平成28年度には2500万円の収入を見込んでいる。

### 町民目線のシティプロモーションとは

#### 〈神奈川県町村議会議長会議員研修〉

地方の魅力とPR戦略  
『埋もれた宝』見つけよう  
○平成28年11月18日  
大井町生涯学習センター  
講師 殿村美樹氏  
(TMオフィス代表取締役  
PRプロデューサー)

殿村氏は京都府宇治市で画家の娘として生まれる。父は売れない画家だったため、大学在学中には豆腐店やバスガイドなど30種類以上のアルバイトに励んだ。

多岐にわたる仕事に触れた経験を生かそうと考へ、大手広告代理店に入

社。働く中でお金をかけなくてもPRする方法があることを知り、個人事務所を設立。「埋もれている地方の魅力を社会に発信する」理念のもと、大手広告代理店とは異なる発想でのPR戦略を構築している。

「大企業が経営理念を軸にマーケティングを展開する」ことに対して、「地域や中小企業の人々が自らの魅力に気づき、人が自ら動く地域資源のポトムアップを図り、文化へと高める」ことが地域活性化に対する殿村氏

の基本的な考え方である。それに加え、メディアの興味を引き付けることで自ら発信するという「お金をかけないPR戦略」を実践した。

その成功例として、「佐世保バーガー」の全国的な地域ブランドへの押し上げ、日本漢字能力検定協会との「今年の漢字」の共同プロデュースなどを紹介。

町のシティプロモーションを考えるうえで、参考になることが多い講演であった。

#### 人材育成に投資 各種助成をフル活用

町の未来を担うプロフェッショナル職員を育てることを目的として、研修制度を充実、職員のやる気の向上・意識改革に取り組んでいる。

その他、町の地域イメージの向上、移住・定住人口の増加を目的とした政策を策定・実施するために民間から登用した

参加を中心メンバーとしたマーケティング推進本部を設置。人工芝の照明付きサッカー場を建設したり、文化施設周辺の整

備事業などのスポーツ施設建設・公園整備等には、助成金や交付金を有効に活用している。

財政難を支える縮小だけでなく、積極的な財源確保を試みた政策展開は重要である。

# 教育福祉常任委員会

## 小中一貫教育の 実際は？

11月15・16日、町議会は教育福祉常任委員会主催で小中一貫教育をとり効果を上げている茨城県猿島郡境町の視察を実施した。育てに関して、様々なアプローチがあることを学んだ視察・研修

### 三芳町

三芳町は埼玉県西南部に位置し、面積約15平方キロ、都心から30キロメートル圏内。鉄道駅は無いが、自然豊かな東京のベッドタウンとして発展してきた。人口は、3万8289人。企業がもいたために昼の人口は5千人増える。一般会計は120億円、教育費は12億8千万円。5校の小学校の児童数は2143名、3校の中学校の生徒数は1136名である。



小中一貫教育について説明を受ける

### 学校教育での問題解決を目指してスタート

三芳町の小中一貫教育は、6・3制はそのまま、中学校ブロック内で、既存の学校（校舎）を利用し、小中の教職員及び児童生徒が交流する分離型を主軸としている。

今日の子供たちの学習意欲低下、家庭での学習習慣の未定着、中一ギャップや不登校、問題行動等に対し、義務教育9年間を通し、きめ細やかな学習や生徒指導を行うことを目的としている。

### 取り組みの経緯と今

平成21年に小中一貫教育検討委員会を発足し、平成24年に各中学校ブロックを中心に取り組みを開始。

平成27年より①小中相互の出前授業②行事等で児童生徒の交流③小中一貫した授業規律④生徒指導などの確立の4点を推進。課題としては、出前授業で小学校・中学校での教員免許が違うこと、

小中学校が離れた校舎である分離型は、連絡や調整で時間がかかると説明された。

\* \* \*

二宮町では、児童生徒数は減少傾向にある。1学年で1クラスしかない学校もあり、この現状は集団の中で、多様な考え方に触れることや、学びあいや切磋琢磨する機会が少なくなるなどの問題が指摘されている。

将来の町の学校のあり方については、議会も検討課題として位置づけ、中長期的な視野で、教育福祉常任委員会において調査している。



視察の参加メンバー

## 事業評価の実施に向けて 茅ヶ崎市議会を視察！

決算審議の結果を、予算策定に生かせるよう、町議会では、事業効果評価チームを設置し、事業評価を進めることを検討している。先進的に取り組む茅ヶ崎市議会を視察した。

議会における町予算・決算の審査はそれぞれの特別委員会を設置して4～5日間行っている。しかし、より効果のある監視や提言をすべきとの意見が議員間にあり、約1年間その方法を検討してきた。その一つとしていくつかの事業を選び、通年で事業効果を審査する案が検討された。先進事例を調査するため、既に事業評価を実施している茅ヶ崎市議会を視察した。

茅ヶ崎市議会では、次年度の予算編成に反映するよう9月議会での決算審査において、通常の決算審査だけでなく、決算前の6月に特別委員会を設置し、選択した事業の最終的な事業評価表を作成している。しかし、この事業評価では前年度予算事業の評価と提言となってしまう。次年度の予算に反映させるためには1年早めた事業の評価が必要となる。

二宮町議会では3月議会の予算承認後、当年の事業効果を測る方法を検討しているの、茅ヶ崎市議会方式をそのまま適用できないが、事業評価方法は参考となった。

# これからの 議会報告会&意見交換会

結論ありきで、  
そもそも議会中  
の議論が少ない!!  
活発にして個々  
の考えを示そう!

町の施策を報告  
するのではなく、  
議会の姿勢を明  
確にしていこう!

町民の声が予算  
に反映できる仕  
組み作り急務!

町と同じ報告  
をしても意味  
がない!

議会での論点  
争点を報告す  
べき!

議会に何か言  
うと変わるの?  
期待感を持た  
ない。



## 議会と町民が ピースになれる カタチを目指して

### 「開かれた議会」 実現のため

町議会では、平成25年  
の議会基本条例制定と同  
時に議会報告会を開催。  
数多くの参加者と活発な  
質疑を行ってきた。

3年目の昨年度は、意  
見交換に多くの時間を割  
き、さらに報告会とは独  
立した意見交換会を2回  
開催した。その中で、今  
後の制定を目指す健康条  
例(仮称・大人も子ども  
も輝く「心身きらり」条  
例)の素案や考え方に町  
民のかたの貴重な意見を  
取り入れることができ  
た。また議員各々が様々  
な意見を聞くことによ  
り、考え方に幅が広がる  
など得たものも多い。

### 町民ニーズの把握

参加者が減少傾向にあ  
る。周知不足や、日時・  
曜日設定などにも原因が  
あるだろうが「町民が求  
めるもの・望む形態の変  
化」に配慮されていない

皆さまからのご意見をお待ちして  
おります。参加したことがあるかた、  
ないかた、どのようなことでも結構  
です。議会が進化し続けていくため  
のヒントにさせていただきます。



9月決算議会の報告会にて  
活発な意見交換会が開催された(百合が丘児童館)

のではないかと検討して  
いる。

地域やイベントに向  
く、フィールドワークを  
取り入れるなど、今後も  
あらゆる方法を試験的に  
取り入れて町民ニーズを  
探っていく。

### 日々進化!

### 日々勝負!

町民の皆さんに期待感  
を持っていただけるよう  
な報告会・交換会になる  
よう議会は進めていきま  
す。

### 更なる活性化に向け 議会新構成が決まる

### 議長に二見泰弘議員 副議長に小笠原陶子議員

正副議長の辞職願提出に伴い、  
新たな正副議長が選任された。

同様に議会選出監査からも辞  
職願が出され、新たに根岸議員  
を推薦、町長提出議案で本会議  
に上程、全会一致で可決された。

### 一期生起用を重視した 各委員会正副委員長

各委員会は新たな構成となっ  
た。既成の概念に捉われない議  
会活動や、更なる議会の活性化  
を目指す。

- 各委員会の正副委員長は以下  
の通り(各委員会とも正副の順)。
- 議会運営委員会 ■  
杉崎俊雄、渡辺訓任
- 総務建設経済常任委員会 ■  
野地洋正、善波宣雄
- 教育福祉常任委員会 ■  
前田憲一郎、一石洋子
- 議会だより編集委員会 ■  
渡辺訓任、二宮節子
- 議会基本条例推進委員会 ■  
露木佳代、小笠原陶子



# 今年の決意-2017



## 4年の任期、往路が終わって、復路に向かい 将来の二宮町のために、今年も全力を尽くします



**二見泰弘**  
議長  
(無所属)

昨年12月定例会におきまして、議長に選任されました。緊張感をもって、議会運営に努めてまいります。現在、教育福祉常任委員会では、子どもから大人まで心と身体の健康の保持増進を目的とする、(仮称)「二宮町健康づくり「大人も子どもも輝く心身さらり条例」を作成しております。また総務建設経済常任委員会では、公園の統廃合について調査をしております。更なる町の活性化を図るため、町民の皆様に親しまれる身近な議会を目指してまいります。



**小笠原陶子**  
副議長  
(無所属)

町の予算は減る一方ですが、夢と知恵と工夫は泉のごとく。優しく温かく明るいまちづくりを進めてまいります。議員任期後半2年を条例制定など政策実現に精進します。



**前田憲一郎**  
議員  
(無所属)

教育福祉常任委員会委員長として、継続調査となっている「健康づくり条例」の制定、「地域と学校の在り方」について、研究検討を重ね邁進してまいります。よろしくお願いいたします。



**桑原英俊**  
議員  
(無所属)

町民に愛される公園を目指し、一年間、調査検討を重ねてまいりました。今後も皆様の声を大切に、防犯対策にも取り組み、住みやすい町をつくる努力をしていきます。



**二宮節子**  
議員  
(公明党)

常に町民の一人として、提案や改善を臨む気持ちを持ち、「住んで良かった町づくり」に、視察や研究を重ね、実現に向け一層の努力をしてまいります。



**杉崎俊雄**  
議員  
(無所属)

昨年10月の議会日より紹介した「事業効果検討委員会」が動き出す。試行ではあるが町議会史上、初めてのこととなる。提案者のひとりとして、是非軌道に乗せたい。



**善波宣雄**  
議員  
(無所属)

町政には多くの課題が山積。財政健全化・人口問題・災害対策からも重要な未利用地の有効活用・公共施設の統廃合に着目し、町民の皆様と共に取り組んで参ります。



**露木佳代**  
議員  
(無所属)

議会や町政とはこういうものだと、というドミナントロジックに陥らず諦めず屈せず。基本条例推進委員会では皆さまと楽しく交流が持てるよう新しいことにも挑戦します。



**野地洋正**  
議員  
(無所属)

総務建設経済常任委員会委員長として新たなスタート。公共施設再配置、公園統廃合等課題は山積。町民意見をいかに繋ぎ反映できるか。今年も現場主義で足を動かします！



**渡辺訓任**  
議員  
(日本共産党)

国政の矛盾が町のくらしの隅々に現れていきます。憲法をくらしに活かす生き生きとした町づくりをめざし、今年も調査・政策活動と生活相談の充実に力を入れていきます。



**一石洋子**  
議員  
(神奈川ネット)

引き続き岩崎航氏の「人々の真ん中に飛び込んで行く、それが人生」を胸に皆様と生命、自由、及び幸福を追求する町を創っていききたい。本年も宜しくお願いたします。



**根岸ゆき子**  
議員  
(無所属)

近年、町民と対話の場充実のため議会内議論を深める必要性を痛感。この度、議会選出の監査委員を拝命。更に町政運営を深く学びながら活動に生かしてまいります。



**柳川駅司**  
議員  
(無所属)

任期の前半が終わり、町の財政は相変わらず厳しい状況が続く、人口減少も止まらず、その他問題は山積み。今年も山を動かすべく、課題解決へ力を尽くします。



**添田孝司**  
議員  
(無所属)

議長の前2年間で、改めまして皆様のご支援に感謝申し上げます。議会活動に対する町民の期待や要望は厳しく様々です。志新たに気を引き締めて頑張ります。

## 二宮町総合型地域スポーツクラブ (仮称)ラビッツクラブの設立進む!

町議会は平成27年12月に町に対して、総合型地域スポーツクラブ設立を提言した。

### 総合型地域スポーツクラブとは

誰もが行いたいスポーツを自由に選択できるとともに各種のイベントなど、色々な形で楽しむことのできる身近な場である。クラブは、地域住民に開かれた非営利的な組織であり、理念の共有を基本とし、自主財源を主として運営される。

### 先進事例の視察

一昨年、すでに活動をしている寒川町と小田原市城下町スポーツクラブを視察した。設立までの行政の関与や経緯について説明を受けた。活発なクラブ活動を見ながら、運営者より運営のノウハウや難しさについて直接聞くことができた。

### クラブ設立準備

平成30年度の設立を目指し、趣意書、理念を作成、町民の有志を募り、12名のメンバーで設立準備

## 1市2町議会議員親善交流会を開催!

秦野市・中井町・二宮町では毎年輪番制で各自自治体を視察する交流会を行っている。今年度は昨年の11月1日に秦野市の施設を見学した。

●カルチャーパーク＝(文化・スポーツ施設が集まる総合公園)夏に開園したばかりのバラ園やじゃぶじゃぶ池は大人気。文化の日の市民祭りは相当の賑わいを見せた。



募金箱  
みんなで支える  
カルチャーパーク

●Shune365…(しゅんさんろくご=室内の野菜工場)秦野名水を活用し、LEDでナデシコやクレソンなど数十種類の野菜・食用花を栽培。県内27か所のレストラン等へ出荷している。この名前は「安心・安全な無農薬野菜を365日お届けする」という意味。元自動車部品製造民間会社がベンチャーとしてスタート。まだまだモデル的事業であるという印象をうけた。

●金井酒造…(秦野市唯一の日本酒酒蔵)銘酒「白笹鼓」はここから生まれた。長い歴史の中で水と米に拘り、麹室は木造りで伝統を守る。麹室でモーツァルトを聞く麹たちはさぞ気持ちよく発酵しているのだろう。



幼児運動能力検査を実施  
(町立体育館にて)

備委員会を平成27年4月27日に立ち上げた。昨年の活動は、町立体育館で毎月2回フットサル教室を開催。1回は幼児から小学生までの子どもたちとママさんたちを対象に、もう1回は男女年齢を問わない経験者を対象にしている。また、

11月、12月にはバレーボール教室を開催した。また、イベントとして、8月27日にビーチボール大会を開催。小学生から60代のかたまで14チームが参加した。栄えある第1回大会の優勝チームは、めぐみ幼稚園男組、第2位は家族で参加したチームだった。応援の家族を含めて約200名の町民が集まり、和気あいあいと楽しく盛り上がった1日であった。10月22日には、幼児運動能力検査を実施した。3歳から6歳までの未就学児21名が参加し、保護者の熱い声援の中、25m走、立ち幅跳び、テニス

ボール投げ、両足連続跳びこし、体支持持続時間、捕球の6種目にトライした。幼児たちにとつて初めての体験であったにも関わらず、年齢以上の優秀な得点をあげた幼児も数多く、将来を楽しませる結果であった。

本年3月26日に、第2回ビーチボール大会、4月16日には第2回幼児運動能力検査を開催する。(仮称)ラビッツクラブでは、さらにたくさんの方の参加を募っている。

©東京ハイジ/二宮町



## 編集後記

健やかな新年をお迎えるのことも思います。昨年の二宮町は、大きな自然災害に見舞われることもなく、穏やかな年でした。今年も事故や災害が無く良い年になりますように願っています。

昨年12月に新たな体制となり、私も一年振りに当編集委員。苦手な文章作業に挑戦です。足手まといにならないよう頑張らなくちゃ。

今後も町民の皆様が親しまれる編集を心がけて、委員一同、切磋琢磨してまいります。(二宮)

### 編集委員紹介

- 委員長(中央左) 渡辺 訓任
- 副委員長(中央右) 二宮 節子
- 委員(右より) 根岸ゆき子、善波 宣雄、前田憲一郎、添田 孝司



ぜひ町民の皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。